

科目名		マンガ史					
後期 月曜日 3時限 13：15～14：45							
【担当教員】 雑賀忠宏		対象学年	1	対象学科	アニメ・マンガ	講義区分	講義
		開講時期	③④	必修・選択	選択	校地	古町ルフルキャ
		単位数	2	時間数	30		
【概要】							
日本におけるマンガという表現領域の歴史的展開を、主に戦後（1940年代後半以降）を中心として学ぶ。マンガの多様な表現方法やその主題は、はじめから今日のようなかたちであったわけではなく、日本社会のなかで時代状況やメディアの移り変わりとも関わりながら積み上げられてきたものである。その系譜を理解し、その上で現在の作品の意義や位置づけを把握し言語化できる能力は、マンガが世界へと拡がり複雑化していくなかで、マンガに関わる専門職にとってますます重要な専門的知識となってきた。本科目では、具体的な資料も参照しつつ、表現・メディアの両面で戦後マンガ史を理解することを目指す。							
【学習目標】							
1. マンガの表現技法やジャンル展開、文化的位置等の転換点となった出来事（代表的な作品や媒体など）を学ぶ。 2. 日本における戦後マンガ文化の歴史を理解する。							
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標 番号	学習方法・学習課題 又は備考・担当教員		
1	戦後〈子供文化〉としてのマンガ①：「赤本マンガ」ブームから月刊誌マンガへ			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
2	戦後〈子供文化〉としてのマンガ②：月刊誌「黄金時代」の作品世界			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
3	〈劇画〉宣言①：「貸本マンガ」から生まれたマンガの表現領域			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
4	〈劇画〉宣言②：「貸本マンガ」のなかで拡がりゆくジャンル			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
5	「手にはジャーナル、心にマガジン」①：週刊少年・少女誌と青年誌の時代へ			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
6	「手にはジャーナル、心にマガジン」②：若者文化としてのマンガの百花繚乱			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
7	「少女マンガ」ジャンルの確立と変革①：ジャンルの確立と拡がり			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
8	「少女マンガ」ジャンルの確立と変革②：ジャンルの深化と変革			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
9	「ぼくらのマンガ」を求めて①：マンガ同人誌文化の拡大と変遷			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
10	「ぼくらのマンガ」を求めて②：〈ニューウェーブ〉の作家たち			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
11	「少年マンガ」の再構築：『週刊少年ジャンプ』の時代と多様化する「少年マンガ」			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
12	「国民的文化」としてのマンガ、「オタク文化」としてのマンガ①：錯綜していく80年代・90年代のマンガの風景			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
13	「国民的文化」としてのマンガ、「オタク文化」としてのマンガ②：マンガをめぐる社会的視線と感受性の変容			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
14	爛熟期のマンガ文化へ ①：21世紀のマンガと新たな変容の兆し			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
15	爛熟期のマンガ文化へ ②：Web／デジタルマンガの拡がり			1・2	事後学習:授業内提示作品の通読		
		説明					
指定教材 (教科書等)		なし					
参考教材 (参考書等)		①小学館漫画賞事務局、『現代漫画博物館1945-2005』、小学館、2016年11月 ②みなもと太郎、『岩崎調べる学習新書 マンガの歴史Ⅰ』、岩崎書店、2017年8月 ③大塚英志（作）・ひらりん（画）、『まんがでわかるまんがの歴史』、KADOKAWA、2017年11月					
準備学習（予習・復習等）		復習として、授業内で提示・言及した各時代のマンガ作品についていくつか目を通すこと。					
【評価方法】			【履修上の留意点】				
期末レポートによる評価 60％ 各回コメントペーパー 40％ 上記2項目の総合評価			・他の科目との関連：「マンガ概論」の単位を修得済みであることが望ましい。 ・評価について：期末レポートの提出を求めると共に、毎回授業の中で、理解の到達度を確認する目的で「コメントペーパー」の提出を求める。				